

# 社会科歴史分野についての学習能力

足利市立山辺小学校 飯塚 香

## 1 はじめに

学習能力という言葉には、随分、多様な概念が含まれている。一口に言えば、「学習を支える能力」「学習可能の能力」「学習をしていくための能力」などが考えられよう。もう少し積極的な意味では「児童・生徒が学習において期待されている内容を正しく獲得していく能力」といってよいであろう。しかし、教育現場におおして具体的に考えてみると、このことばには幅の広さと奥行の深さがあり、つかみどころのない事も事実である。

さて、学習能力を広がり的一面から考えてみると、広義には、学習者の学習に対する興味・関心・意欲など人間性そのものまでが含まれてくるように思う。

更に観点を変えて、学習能力を支える能力としても、友人の意見を正しく聞きとる力、自分の考えを正確に表現できる力、ノートや文章を書きまとめる力、仲間と協力し合って学習に取り組む態度などいろいろな能力がその基盤に含まれている。現実の学習場面で強調される児童・生徒の主体性と学習能力の関係では、総合的な学習能力としての問題解決能力・豊かな創造的能力・適格な構想力・洞察力・表現力などは現代の教育が求めている学習能力である。

社会科歴史分野についての学習能力としては、歴史的な見方、考え方、歴史的な認識、歴史的思考力などが含まれる。社会科の本質である観察力、資料活用能力、思考力、情報処理能力・及びそれらを総合した社会的判断的などが学習能力として挙げられる。

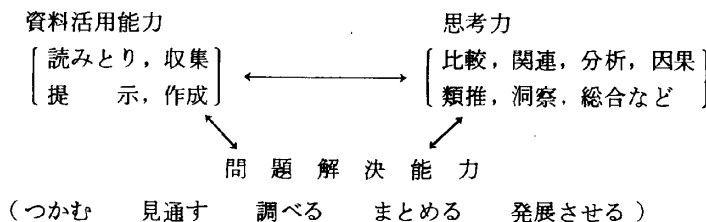
そこで、学習能力は、A能力（学習の思考過程の中で形成される）、B能力（前提能力、史実）があると仮定し、二つの能力の関連を考察することによって能力構造に迫ってみたいと考える。

### (1) 分析、考察する能力

社会科歴史教材「検地、刀狩」を研究対象に選んでいるので、まず、社会科の諸能力から、資料活用能力（収集、提示、作成を含む）と思考力（比較、関連、分析、因果、類推、洞察、総合など）を取り出し、さらに児童、生徒の主体的学習活動を見るために問題解決能力の三つを選び、この三つの能力を主として分析、考察する能力に決定した。

なお、問題解決能力は、いわゆるいくつかの能力が総合された能力であるが、一般的には問題をは握する力、見通しをたてる力、意味を追求する力、獲得した概念を適用、発展させる力、新しいものを創造していく力という一連のプロセスに働く能力であると考えられる。

### 分析、考察する三つの能力



(2) 目標マトリックス

目標マトリックスは、教材目標と学習者の学習能力を関係的に示す表である。従って、これは教師側からの学習能力究明の客観的評価基準となるものである。目標マトリックス作成の手順は、まず、教材目標やその内容を学習者の発達段階（実態）を考慮してできるだけ具体的、詳細、明確に取り出し、これを内容的要素と行動的（能力）要素に分け、それぞれをたて軸、よこ軸に位置づける。次いで、認知（知識、理解）、情意（態度、関心）技能の三領域とそれに歴史教材の学習過程（問題解決）を想定し、それぞれの段階で児童・生徒につけたい能力、態度、技能や学習活動を書きこんでいく。

従って、目標マトリックスは教師が想定した学習能力究明の窓であり、それぞれのステップにおける評価となるものである。又、目標マトリックスは児童・生徒の前提能力とかかわって修正されるべきものである。

イ. 行動的（能力）要素

ロ. 内容的要素

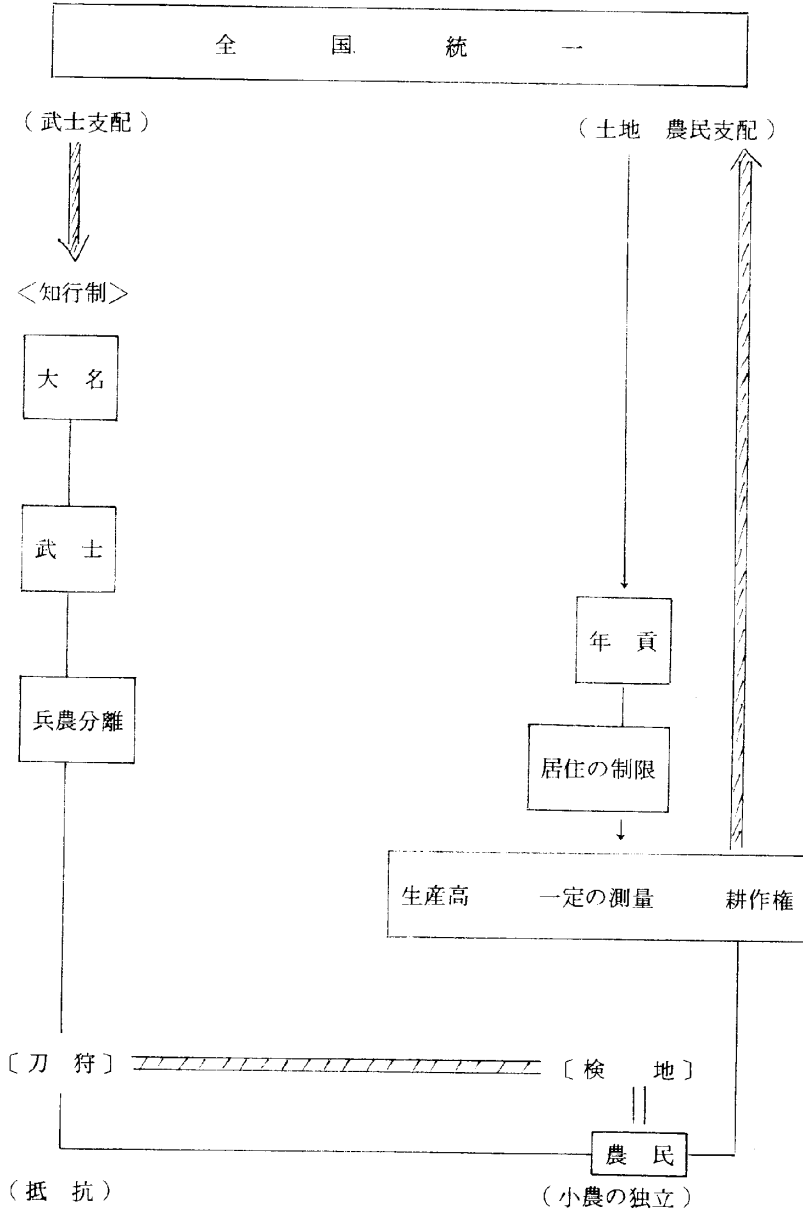
- ・ 検地
- ・ 刀狩

領域	思考段階	能力要素	学習過程
認   知	1	問題解決能力	問題をもつ 仮説をもつ
		資料活用能力	史実を調べる 史実を解釈する
	2	問題解決能力	史実に対して問題をもつ
		資料活用能力	問題に対する史実を読みとる
3	思考力	史実を関係的にとらえる 想像的に視点を变えて構成する	
3	到達概念	史実の意味するところをとらえる	
情意		情意	
技能		技能	

(3) 教材分析構造図

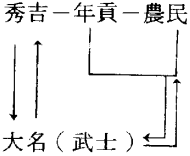
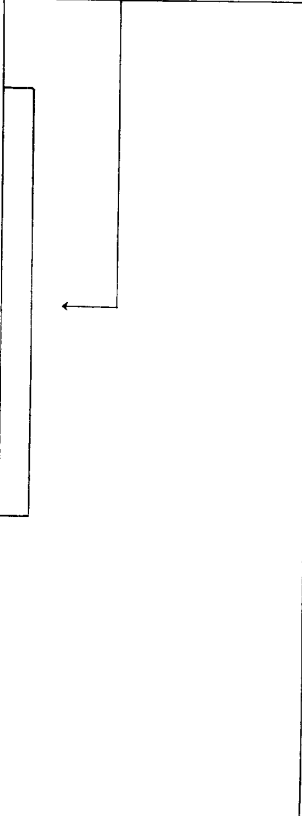
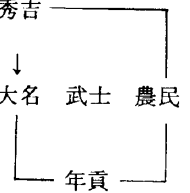
児童・生徒の学習能力を究明するための基本的条件は教材目標をできるだけ具体化，詳細化，明確化することである。そのためには，教材を分析し，何を中核にすえて教材内容を組織するかということが重要となる。

小学校教材分析構造図  
(検地) (刀狩)



(4) 小学校目標マトリックス

内容目標	能力目標 行動的要素 内容的要素	問題解決能力		資料活用能力	
		問題をもつ	仮説	史実を調べる	史実を解釈する
秀吉の全国統一	検地	<p>どんなことをしたの だろう。</p> <p>誰が誰にどのような 方法でしたのだろう。</p> <p>〔自分なりの問題〕 をもって取り組むことができる。</p>	<p>仮説</p>	<p>検地帳を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地のよしあし</li> <li>・土地の広さ</li> <li>・作物のとれ高</li> <li>・耕作者</li> </ul> <p>全国的に行なわれている。 測量の方法や「ます」 が一定に正しくされて いる。</p>	<p>年貢を取りたてるためにし ている。</p> <p>全国の農民を統一して年貢 を取りたてるようにしてい る。</p> <p>耕作者の土地を守ろうとし ている。</p>
	刀	<p>刀をとられた農民は 困らなかったのだろ うか。</p> <p>反対しなかったのだ ろうか。</p>	<p>刀狩令</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知行主に非道なふ るまい。</li> <li>・耕作に専念すれば 幸になる。</li> <li>・領主にさし出す。</li> </ul>	<p>刀を取りあげて一揆を押え ようとしている。</p> <p>農業を専門にさせ、農業に 力を入れようとしている。</p>	
	狩	<p>どの様にして刀狩を したのだろう。</p>	<p>没収した武器は大仏の クギやカスガイにして いる。</p>	<p>武士の力を強くしようとし ている。</p>	

問題解決能力	資料活用能力	思考力	
史実に対して問題をもつ	問題に対する史実を読みとる	史実を関係的にとらえる。	想像的に視点を変えたり構成したりする。
領主は反対しなかったのだろうか。	<p>反対した人々に対する処分。</p> <p>奥羽で長政に与えた秀吉の方針「なで切り」</p>	<p>検地を行なった秀吉の意図を大名や農民の関係から考えようとする。</p> <p>秀吉—年貢—農民</p>  <p>大名(武士)</p> <p>検地が行なわれた農民の生活の変化を考えようとする。</p> <p>耕作権認められる</p> <p>土地年貢しぱりつけられる。</p>	
<p>農民から刀を取り上げるといことは農民から武士になることができなくなってしまったのだろうか。</p> <p>農民と武士と分けて働きやすくしようとしたのだろうか。</p>		<p>検地と刀狩の政策を関連づけて考える</p> <p>秀吉</p>  <p>大名 武士 農民</p> <p>年貢</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>力をもつてくると困まる。土地農民を従えて大きな</p> </div>

概 念		
史実の意味するところをとらえる。	情 意	新しい問題へ
<p>秀吉は検地により全国の農民を支配し、大名と主従関係により支配することができた。</p> <p>検地により武士農民（耕作者）は切りはなされていく。</p>	<p>秀吉は支配者だ。</p> <p>秀吉の全国統一は農民のためではない。</p> <p>荘園制はなくなった。</p> <p>耕作権が与えられた農民はよくなるだろうか。</p> <p>居住の制限をうけ年貢を強制される農民は苦しくなるだろう。</p>	<p>反対していく大名</p> <p>農民の生活</p> <p>農民の反対</p>
<p>武士と農民の区別をはっきり分け、新しい大きな武士が育たないようにした。</p> <p>武士は年貢によって生活していくのだから農民の一揆をおさえ支配しようとした。</p>	<p>農民は武士のために米を作らねばならない。</p> <p>年貢に反対しようとしても武器がないから武士の言うことを聞かなければならなくなる。</p>	<p>支配者に対する考え</p> <p>時代の動き</p>

(5) 前提能力の実態をつかむ

前提能力調査問題や事前テストの問いに対する児童の記述を洗い出し、彼らが学習に対してどのようなことを知っているのか、根拠や足場のようなものは何なのかをはじめにとらえておこうと考えるのである。この前提能力を一応とらえておけば、それがどの変客したのか。又、どうふくらみ高まっていったかということが考察できると思われるのである。

学習前、学習後の差から探る

事前テストと事後テストの差（伸び）をとらえ、高まった要因は前提テスト（事前テスト）——授業——→事後テストの流れの中でどこにあるのかを変客の要因として考えてみようと思うのである。

(6) 小学校前提能力調査問題

1 (子どもの学習の足場, 問題意識, 資料の解釈や選択を見る問題)

(1) 戦国時代の学習を終えて, あなたは今どう思っていますか。

(戦国大名についての考え, 戦国大名の領国支配についての考え, 城下町についての考え)

(2) また, あなたはこの時代がどう動いていくと思いますか。

(3) それをどのことから調べていきたいと思いますか。

2 (検地や刀狩について, 問題に思うこと, 調べたこと, わかったこと, 考えていることなど, 次の問題に合わせて, 自分の考えをありのままに書いてください。)

(1) 検地はだれが行ないましたか。どのような方法でしたか。〈事実認知〉

(2) 検地帳を見て, どんなことがわかりますか。また, わかりませんか。〈資料分析〉

(3) 検地について, どんな問題を持ちますか。その問題を調べるにはどんな資料が欲しいと思いますか。〈資料選択〉

(4) 検地は何のためにしたのだと思いますか。それはどのことからそう言えますか。〈思考力・資料分析〉

(5) 検地により秀吉はどうなりましたか。大名や武士はどうなりましたか。秀吉と大名・武士・農民はどうなりましたか。〈関連思考・構想力〉

(6) 刀狩はだれが行ないましたか。どのような方法でしたか。〈事実認知〉

(7) 刀狩令を見て, どんなことがわかりますか。また, わかりませんか。〈資料分析〉

(8) 刀狩について, どんな問題を持ちますか。その問題を調べるにはどんな資料が欲しいと思いますか。〈資料選択〉

(9) 刀狩は何のためにしたのだと思いますか。それはどんなことからそう言えますか。〈思考力・資料分析〉

(10) 刀狩により秀吉はどうなりましたか。大名や武士はどうなりました。農民はどうなりましたか。秀吉と大名・武士・農民はどうなりましたか。〈関連思考・構想力〉

(11) 刀狩と検地とは関係があるでしょうか。どんなところが関係あると思いますか。〈思考力・一般化〉

(12) 秀吉の政治(天下統一)についてどう思いますか。問題があれば書いてください。

(13) 秀吉のとったこの政治は, どうなっていくと思いますか。また, 農民はどうなっていくと思いますか。



(7) 授業研究

◆ 小学校

1 第6学年社会科学習指導案

(1) 小単元 天下の統一

(2) 本時の目標 秀吉が検地・刀狩により統一政治を行なったことをとらえ、武士が農民を支配する社会の仕組みを固めていったことに気付く。

(3) 授業構造

子どもの学習	教師の考える授業内容
問題	〔秀吉の全国統一〕
統一した秀吉は大名・武士・農民に対してどのような政治をしたか。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">検地</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">刀狩</div> </div> <p>＜検地帳＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>土地のよしあし 土地の広さ とれる米の予想 耕作者</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>土地に合わせて取れ高を決める。 ↓ 年貢を取るためにしている。</p> </div> </div> <div style="width: 45%; margin-left: 20px;"> <p>刀を持たず農業を専門にする ↓ 重い年貢になった時、力がないと反対できない。 (一揆)</p> </div>
史実に対する自分の考え	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>誰がなったか</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>名士（農業している武士） 土地を借りている百姓 土地がなく働いている下人</p> </div> </div>
史実の確かめ 見直し 発見	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>(武士) 城下町</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(農民) 農村</p> </div> </div> <p>土地から離れられない。</p>
(問題)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>(土地がない) (刀を持つ)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(土地を持つ) (刀がない)</p> </div> </div> <p>年貢 ↓ 支配</p>
関連	<p>農民と武士とが分けられた。</p>
組み立て	<p>＜全国＞＜測量＞</p>
問題に対する自分の考え	<p>秀吉が全国の土地を支配し大名を従えた。……</p>
新しい問題	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>秀吉</p> <p>↓ 土地</p> <p>↑ 家来</p> <p>大名</p> <p>↓ 武力</p> <p>↑ 年貢</p> <p>農民</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>全国の土地支配</p> </div> </div> <p>農民は土地から離れられず、反対もできず税をだし続けなければならない。 武士に従わねばならない。</p>
	<p>この統一政治を基にして秀吉はどんなことを—— していくか、大名・武士・農民はどうなるか。</p>

(8) 子どもの考えの立場(方向)

子どもの事実を見る時、一つの方向をもって見、その方向により事実を位置づけている。子どもの立場を中心問題から分類すると次のようである。

- 1 どのようにして統一していったか …………… (統一の立場)
- 2 だれのための政治か …………… (政治の立場)
- 3 何のためにしたのか
- 4 農民はどうなるのか(年貢, 貧しさ) …………… { (農民の立場) }
- 5 反対はしなかったのか …………… { ( # ) }
- 6 どのように田を分けたか, 持主は誰か

この視点は、子どもが歴史を見ていこうとする視点であり、今までの学習で培われてきた子どもの立場であると考えられる。この立場は、史実の意味づけに方向を与えていくものとする。

1(統一の立場) 2(政治の立場) 4.5(農民の立場)にたつ子どもの足場は、授業を通して自分にはね返ってくる追究の強さをもっていると考えられるが、3(何のために) 6(どのように)という方向のとらえられない足場は、資料の意味づけや思考の組み立ての障害となって足場を弱くするものと思われる。

(9) 子どもの考えの立場(根拠となる考え)

検地及び刀狩の資料を子ども達は、次のように意味づけて自分の思考(授業)の足場になっている

<検地>

- 1 検地と年貢
- 2 田の分け方, 耕作者の決め方
- 3 秀吉の統一政治
- 4 身分

<刀狩>

- 1 農民がたばになって反対するのを恐れている
- 2 農民の武力をなくして一揆を防ごうとした
- 3 刀狩で身分の差がはっきりした
- 4 農民から多くの年貢をとるためにした
- 5 百姓は戦いの役にたたないので武士に武器を持たせた

子ども達の足場を一般的にみると、「戦国時代から信長、秀吉による統一への動きを大名、武士との勢力関係や農民の支配関係から農民の立場に立って見ようとしている。」とみることができる。

しかし、個々の子どもが、その史実をどのように自分のものになっているか。又、その足場は武士の世の中の仕組みや、全国統一へどのようにせまることができるか、ということになると、個々によって足場は違っている。

<検地>資料と「秀吉はどんな政治をしようとしているか。」の立場に立って考えている子どもの足場は、「年貢と関係づけている。」子どもと「耕作者のきめ方, 田のよしあし, 分け方」にこだわっている子どもと大きく二つに分かれているようである。

前者は、「田のよしあし, 面積, とれ高, 耕作者を調べ, 記録した。」という事実をもとに秀吉の意図をとらえようとしている子ども達であり、後者は、「田のよしあしをきめ, 田の広さを測量し, 耕作者をきめた。」という事実に対し、検地の方法がわからないとし、きめたことに秀吉の意図をとらえようとしている子ども達である。

年貢と関係づけて検地帳を見た子ども達は「検地帳資料には年貢のことは書かれていない。」

- 全国の米の取れ高を予想する事ができる
- 取れ高（田のよしあし、広さ）に合わせて年貢を取る
- 公平に（正しく）年貢を取る
- ごまかさないようにした（かくし田もできない）

と検地帳を意味づけ

- 全国の土地を自分のものにした      ◦ 自分の思う政治をした
- 全国の土地、農民を支配した      ◦ 検地、刀狩は全国統一に関係がある

「全国」「統一」と関連して「誰のため」「何のため」など政治に問題を持ちながら足場を深めようとしている。

- 検地をして土地から離れられないようにした（年貢がほしいから）
- 身分をきめ年貢を多くとろうとしている

又身分とも関連づけて政治の意図をとらえようとしている。年貢に視点をあてた子ども達は「統一」「身分」にまで関連づけて考えようとしている。

次に、「田のよしあしや田の持主、田の分け方」にこだわった子どもの足場である。この足場は、意味づけができず、わからない問題意識から出発している。

- 田のよしあしをどのように決めたのか。田の多い少ないはどうして決めたのか。
- 田の取れ高によって年貢は違ったのか。……〈この疑問は〉
- 上田は身分の高い人、下田は身分の低い人が持ったのではないだろうか
- 上田は武士、下田は農民が持つ。……〈と身分の差の予想の広がり〉
- 分ける時に争いは起こらないか。差をつけてどうしようとするか……など、思考はゆきづまり、情意に流れれば流れる程、中心課題からそれていく。「田のよしあし、持主」に視点子どもたちのだいたいぶんが他の視点と関連づけて見ることはできなかった。

具体的に部分的に一つのことにこだわり、全体を見通す能力のないことや、前時代からの時代のとらえ方や問題意識の弱さが、この足場を弱くしていると言える。

— 事例 —

T・S 児の場合、授業前には、刀狩については農民の反抗を恐れる意図がとらえられているが、検地の意味づけができず、関連的思考には至っていなかった。ところが、授業中の討論の中で自分の提示した新しい史実「取れ高の半分が半分以上、年貢をとられる。」「田を耕す者が田の持ち主になる。」という二つの要素を中核におくことにより、授業前の足場「大名はほぼそれだけの米が取れる領地を持っている。」と結びつき関連思考が成立した。

## 2 おわりに

子どもの能力構造を分析し考察したわけであるが、子ども達は、自分の足場を崩していくことにより、新しい事実や新しい意見を受け入れ、思考が成立させていった、それを支えていったのは、問題意識と「わからないことを確かめていく。」追求姿勢にあるようである。

## 評

知識中心から豊かに考える社会科へ、児童生徒が考える楽しい社会科へ。このことは、社会科のめざす方向でもあり、自ら考え正しく社会的に判断できる児童生徒を育てる上からも大切なことでもあります。社会科における見方・考え方を育てることが重視されるゆえんはそこにあるわけです。

この研究も、その線上でとらえることができるでしょう。特に、資料活用能力、思考力、問題解決能力を学習過程の中でどう育てていったらよいかを追求しています。このことは、児童が自ら課題をもち追求していく学習の重視であり、喜んで学習に参加する授業をめざしているものです。社会科授業を考える上で貴重な示唆を与えています。

この研究が今後日々の実践の積み上げによってより確かなものになるよう期待しております。